

事務事業評価シート(浜田市作成分)～令和6年度実施事業～

■事業の位置づけ（基本事項）			担 当 課 係		環境課カーボンニュートラル推進室
事務事業名	地域の再エネ導入支援事業		事業予算費目（一般会計）		
総合計画 の位置づけ	大綱	IV自然環境を守り活かすまち	款	4	衛生費
	施策大綱	IV-1 地球温暖化対策の推進	項	1	保健衛生費
	基本目標	4 地域の特性を活かした安心して暮らせるはまだづくり	目	4	環境衛生費
	主要施策	IV-1-1 再生可能エネルギーの導入及び省エネルギーの推進	事業	305	地域の再エネ導入支援事業

■事務事業の概要（PLAN）

事業の目的	市内の家庭や事業者から排出される二酸化炭素を削減するため、家庭や事業所への再生可能エネルギー設備設置を促進することを目的とする。	事業の内容	再生可能エネルギー設備である太陽光発電、太陽熱利用、蓄電池、木質バイオマス設備、家庭用燃料電池設備の設置に対して補助金を交付する。
市民ニーズの把握状況	2024年1月「浜田市地球温暖化対策実行計画」改定時に市民・事業者アンケートを行い、再エネの導入状況、課題、希望などを把握している。	市民参加・協働の有無 その内容	・R5年度に市民1,000人、事業所200社にアンケートを実施している。 ・設備の設置工事に関しては、市内事業者が行うことと条件付けしている。

■事務事業の業績・推移（DO）

目標と実績	設定した目標			目標/実績	目標/実績	目標	目標	
				R5	R6	R7	R8	
	再エネ設備導入のために補助金を活用した件数			目標	41件	79件	51件	51件
設定した理由・背景				実績	30件 (外 上乗せ補助 若者ファンド* 12件)	17件 (外 上乗せ補助 若者ファンド* 12件)		
H22年度から始めている事業で、最近の状況はR2年度5件、R3年度15件、R4年度21件である。R4年度にゼロカーボンシティ表明をし本格的に事業展開するために目標を大きくした。								
		R5年度決算	R6年度最終予算	R7年度予算	市民1人当たりのコスト			
事業費	総事業費		4,960,000	3,440,000	9,300,000	R5	99	
	財源内訳	国県支出金	2,480,000	1,720,000	3,600,000	R6	70	
		地方債	外 上乗せ補助 若者ファンド* 12件 1,032,000円	外 上乗せ補助 若者ファンド* 12件 650,000円	各年度4月1日時点の人口			
		利用者負担・その他				R5	50,129	
		一般財源	2,480,000	1,720,000	5,700,000	R6	49,096	
■評価 (CHECK)		外 上乗せ補助 若者ファンド* 12件 3,096,000	外 上乗せ補助 若者ファンド* 12件 3,080,000円					

事業実施・実績に対する意見や評価など	R3年、カーボンニュートラル準備室の立上げと同時に、再エネに対する機運が高まると補助件数も増えてきた。R5年には上乗せで若者ファンドにも対応した制度も新設され、R5年12件、R6年12件と申請があった。しかし、R6年になると県補助の1件当たりの補助額が下げられ呼応して市の補助額も下げたために件数が大きく落ち込んだ。 また、FIT制度での電気買取価格の順次引下げ、太陽光発電設備の多くが外国製であること、太陽光機器の廃棄処分の課題などもあり、取り巻く情勢の変化も出てきた。 ただ、若者ファンドによる補助額の上乗せは人気があり、新規住宅取得の際の補助金利用は引き続き期待できるものである。
--------------------	---

■改善・効率化の方向性（ACTION）

令和7年度執行に向けた工夫点 今後の課題など	R7年は、1件当たりの補助額を県の補助金額に関わらずR5年水準に戻した。更に家庭用燃料電池（エネファーム）も新たに加え、ガス利用者にも再エネ設備の導入が可能な項目もつくった。 また、若者ファンドによる上乗せの補助も引き続き取組み、手厚い支援を継続することとした。 今後の課題としては、人口減少と高齢化による再エネへの取組み者数の確保が難しくなることと、世界情勢によるエネルギー政策の方向転換や再エネ機運の鎮静化が気になるところである。
---------------------------	---